

令和4年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

世界史

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

注意事項

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから11ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

- 1 次の文章は、「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）の世界史探究の「2 内容」の大項目「E 地球世界の課題」から一部抜粋したものである。後の問いに答えなさい。（資料は一部省略したり、書き改めたりした部分がある。）

(2) 経済のグローバル化と格差の是正

諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 先進国の経済成長と南北問題、アメリカ合衆国の覇権の動揺、資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換、アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題、経済のグローバル化などを基に、格差是正の取組と課題を理解すること。

問 上の文章の二重線に留意した上で、「ベトナム戦争と国際経済」という主題を設定し、後の資料A、資料Bを活用して探究する1単位時間の授業を構想したい。

- (1) あなたであれば、この主題に即して、授業の導入においてどのような問いを提示するか、記述せよ。
- (2) 資料A、資料Bを活用して学習活動を行うに当たり、あなたであればどのような目標を設定するか、記述せよ。（文末は、「～について理解する。」とすること。）
- (3) 授業中に、生徒から「ベトナム戦争が終結した頃の世界経済は低成長だったと学びましたが、このことに対してどのような対応がなされたのですか。」という質問があった。これに対し、どのように説明するか、書け。

資料A

(東京大学出版会編「近代国際経済要覧」)

資料B

(歴史学研究会編「世界史史料11」岩波書店)

- 2 次の文章A、Bを読み、文中の空欄（a）～（j）に適切な語句を以下の語群ア～ソよりそれぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。また、後の（1）～（7）の問いに答えなさい。

語群

ア：匈奴	イ：鮮卑	ウ：秦	エ：齊	オ：南詔	カ：邪馬台国
キ：柔然	ク：突厥	ケ：高麗	コ：キルギス	サ：ヤマト	シ：高句麗
ス：後漢	セ：大越	ソ：渤海			

A 3世紀前半の（a）の滅亡から隋の統一にいたる3世紀半あまりの中国は、分裂と戦争の時代であった。①中国内地の政治的混乱に乗じて北方民族が力を伸ばす中、華北では5世紀前半に五胡の1つである（b）族の②北魏が統一を果たした。一方江南では、漢民族による宋・（c）・梁・陳の各王朝が短期間に興亡した。この動乱の時代は国家の統制も弱まり、多民族がまじり合う状況の中で③多様な思想・文化が花開いた。

中国周辺の諸民族の活動の活発化は、北方のみならず東方でもみられた。前1世紀頃、中国東北地方南部に起こった（d）は、4世紀初めには南下して④楽浪郡を滅ぼし、朝鮮半島北部を支配した。小国が分立していた半島南部でも統一が進み、東側に新羅、西側に百済が成立し、南側の地は加耶諸国となった。（d）・百済・新羅の三国は互いに対抗し、時には同盟関係を結びながら、中国の北朝・南朝に朝貢使節を送って勢力の拡大を目指した。日本では、4世紀に（e）政権による統一が進み、5世紀には倭国（日本）の王がたびたび中国の南朝に使者を送り、国際的地位の上昇をはかった。

- (1) 下線部①について、3世紀末～4世紀初頭にかけての中国内地の政治混乱について、当時中国を支配していた王朝に与えた影響に留意しつつ、説明せよ。
 (2) 下線部②について、次の資料1は、北魏のある皇帝が行った政策についてのものである。資料1の内容を踏まえて、皇帝の名を明記しながら、政策の具体的な内容を説明せよ。（資料は一部省略したり、書き改めたりした部分がある。）

資料1
（歴史学研究会編「世界史史料3」岩波書店）

- (3) 下線部③について、『桃花源記』や『帰去来辞』の作者として知られる田園詩人は誰か、書け。
 (4) 下線部④について、この郡を設置した皇帝の治世について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
 ア 新都長安の建設が開始されるとともに、前王朝の政策の失敗を教訓として郡国制が採用された。
 イ 司馬遷が『史記』をまとめ、太古からの歴史を編年体で叙述した。
 ウ 張騫を派遣したことをきっかけに、西域のオアシス諸都市にまで支配を広げた。
 エ 中央が任命した中正官が、地方の人材を9等級にわけて推薦する九品中正が制定された。

B 隋唐時代にモンゴル高原を中心とする北方で勢力をもったのは、6世紀中頃に大遊牧国家をつくったトルコ系の(f)、ついで8世紀半ばに台頭したウイグルである。一方チベットでは、7世紀にソンツェン＝ガンボが吐蕃を建設した。また8世紀後半、唐とチベットの争いに乗じて雲南で(g)が勢力を広げ、唐文化の影響を受けて栄えた。東方の朝鮮や日本は、朝貢制度をつうじて律令体制・都城の制・仏教文化などを導入し、国家の整備に役立てた。中国東北地方には7世紀末に(h)が建国され、唐の官僚制や都城の制を取り入れて日本とも通交し、8～9世紀に栄えた。唐の勢力は東南アジアにも及び、⑤インド文化の影響を受けた東南アジアの諸国も唐に朝貢した。

唐末から五代の時代は、東アジアの諸政権が一斉に交替した時期であった。9世紀半ばにウイグルが滅んだのち、東アジア北方世界の主役はモンゴル系の⑥契丹に移った。10世紀前半には、唐の滅亡を皮切りに(h)は契丹に降伏し、朝鮮では新羅にかわって王建が開城を都として(i)をたて、雲南では(g)から大理へと政権が交代した。千年以上にわたり中国の支配をうけてきたベトナムでも10世紀後半に独立国家がつけられ、11世紀初めには李氏が(j)をたてて支配を固めた。唐を中心として形づくられていた⑦東アジア文化圏の統合がゆるみ、それぞれの地域が独自の特色ある文化を形成していくのがこの時期であったといえる。

- (5) 下線部⑤について、次の資料2は、7世紀半ばに成立し海上交易で栄えた東南アジアのある国を訪れた唐僧が、滞在中に書き記したものの一部である。ある国とはどこか、書け。(資料は一部省略したり、書き改めたりした部分がある。)

資料2

(歴史学研究会編「世界史史料3」岩波書店)

- (6) 下線部⑥について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。

- ア 官制において、部族制に基づく北面官、州県制に基づく南面官を設けた。
- イ 部族制に基づく猛安・謀克という軍事・社会組織を持っていた。
- ウ 北宋と澶淵の盟を結び、毎年北宋に銀や絹をおくるなどの条件を受け入れた。
- エ 戦費のために紙幣である交鈔を乱発し、経済的な破綻を招いた。

- (7) 下線部⑦について、日本でも10世紀頃から独自の特色ある文化が形成され、その後、政治面でも変化があった。このことについて、以下の語句を全て用いて説明せよ。なお、語句を使用した箇所には下線を付すこと。

武士	貴族	大和絵	遣唐使
----	----	-----	-----

3 次の文章A、Bを読み、文中の空欄（a）～（j）に適切な語句を入れなさい。また、後の（1）～（6）の問いに答えなさい。

A 18世紀初頭のアウラングゼーブ帝没後のムガル帝国は力を失い、地方勢力が軍事抗争を繰り返すようになっていた。18世紀半ばからは、イギリスとフランスの東インド会社がこれら地方勢力の争いに介入して互いに激しく対立し、イギリス東インド会社は①1763年のパリ条約でその優位を決定づけた。

さらに、イギリス東インド会社は東部のベンガル・ビハール両地域の徴税権を獲得し、南部では（a）王国との4次にわたる戦争に勝利をおさめた。また、西部での3次にわたる（b）戦争や、西北部での2次にわたる（c）王国との戦争にもそれぞれ勝利した。こうして19世紀半ばまでにインド全域を制圧することに成功し、植民地化を完成させた。

イギリス東インド会社の最大の収入源は地稅であった。②徴税制度の実施にともなう新たな土地制度の導入とあわせて、産業革命によるイギリスの急速な工業化は、インド社会に深刻な影響を与えた。これを受け、インドは、イギリスとの貿易の中で生じた貿易赤字に対応するため、③多角的な貿易構造を形成するようになった。

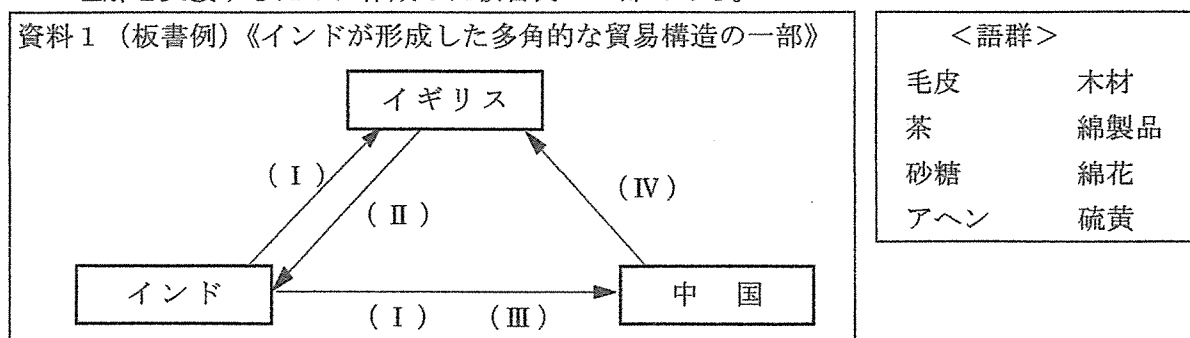
1857年、植民地支配への反感の広がりが背景となり、北インドを中心にした広範な地域でインド人傭兵（シパーヒー）による大反乱が発生した。しかし反乱は次第に鎮圧され、1858年にムガル帝国は滅亡した。同年イギリスは東インド会社を解散し、インドの直接統治に乗り出した。さらに1877年には（d）がインド皇帝に即位し、インド帝国が成立した。

(1) 下線部①について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。

- ア この条約で、イギリスはスペインからジブラルタルとミノルカ島を獲得した。
- イ この条約で、イギリスはフランスからカナダとミシシッピ以西のルイジアナなどを獲得した。
- ウ この条約は、スペイン継承戦争と並行して行われた植民地戦争の結果結ばれたものである。
- エ この条約で、フランスは北アメリカにおける領土を全て失った。

(2) 下線部②について、イギリス東インド会社が実施した、政府と農民の間を仲介するものに徴税を任せ、その仲介者に私的土壌所有権を与える徴税制度を何というか、書け。

(3) 下線部③について、次の資料1は、インドが形成した多角的な貿易構造の一部について、生徒の理解を支援するために作成した板書例の一部である。



i) (I)～(IV)に適する主要な貿易品名を、それぞれ上の語群より1つずつ選べ。

- ii) 資料1を基にして、次の資料2、資料3の読み取りをとおして、イギリスの工業化がインド社会へ与えた影響について生徒に理解させたい。あなたであれば、どのようなことを理解させたいか、説明せよ。(資料は一部省略したり、書き改めたりした部分がある。)

資料2

(歴史学研究会編「世界史史料6」岩波書店)

資料3

(東京大学出版会編「近代国際経済要覧」)

B インド帝国成立以後、インドではインド人の意見を諮問する機関として、1885年にインド国民会議が結成された。これは当初穏健な組織として出発したが、しだいに民族運動の中心となっていった。

④1905年にベンガル分割令が発表されると、インド国民会議は政治組織の国民会議派へと変貌した。

第一次世界大戦中、イギリスは⑤民族自決という国際世論の圧力に押され、インドに自治を約束した。しかし、大戦後の1919年インド統治法は、自治にはほど遠い内容であった。また、これと同時に強圧的な(e)法が制定され、インド民衆の激しい反発を生んだ。

こうした植民地政府の圧政に対し、非暴力を掲げて民衆の指導者として登場したのが(f)であった。彼は1920年の国民会議派大会で非協力運動を提示し、民族運動をエリートだけでなく民衆も加わる運動へと脱皮させ、ムスリム民衆の支持を得ることに成功した。しかし1922年に農民による警官殺害事件が起きたために運動は中止され、運動方針の対立や宗派對立の深刻化により、ムスリムは反国民会議派・親イギリス路線を歩むことになった。

1929年に国民会議派内の(g)ら急進派が、完全独立を意味する(h)を決議した。他方、イギリスはインドの様々な勢力をロンドンに招集し、(i)を開いたが合意はならなかった。こうした中で、1935年にはインド統治法が成立したが、完全独立とは程遠いものであった。1940年、⑥全インド＝ムスリム連盟はあらたにイスラーム国家の建設を目標に掲げ、統一インドを主張する(f)らと対立した。

1947年、インド独立法が制定されると、ヒンドゥー教徒を主体とするインド連邦とイスラーム教徒による(j)の2国にわかれて独立した。1950年、インドは初代首相(g)のもとで、カーストによる差別の禁止など社会の近代化をめざす憲法を發布し、共和国となった。

- (4) 下線部④について、インド国民会議が政治組織の国民会議派へと変貌した経緯について、ベンガル分割令の目的に触れながら、次の語句を全て用いて具体的に説明せよ。なお、語句を使用した箇所には下線を付すこと。

スワデーシ カルカッタ大会

- (5) 下線部⑤について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
- ア この原則を提唱したアメリカ大統領は、国際連合の設置を提案した。
 - イ ロシア革命を主導したレーニンは、この原則を「土地に関する布告」の中に盛り込んだ。
 - ウ 民族自決権の適用は、旧ロシア・ドイツ・オスマン帝国下の諸民族に限定された。
 - エ 1919年に開かれたパリ講和会議では、この原則の他に軍備縮小や秘密外交の廃止などが提唱された。

(6) 下線部⑥について、このときの全インド＝ムスリム連盟の指導者は誰か、書け。

4 次の文章A～Cを読み、文中の空欄(a)～(h)に適切な語句を入れなさい。また、後の(1)～(12)の問いに答えなさい。

A ノルマンディー公国は、10世紀初め、北フランスに上陸した(a)率いる一派によりたてられた。1066年には、ノルマンディー公ウィリアムがイングランドを征服し、ウィリアム1世としてノルマン朝をたてた。以後、イングランドに封建制が導入され、北フランス出身の領主たちがアングロ＝サクソン人を支配した。ノルマン朝を継承し(b)朝を創始したアンジュー伯ヘンリ2世も、フランス西半部を領有して大勢力を築いていた。ところがその子ジョン王は、フランス国王フィリップ2世と戦ってフランスの領地の大半を失った。その上財政難となり重税を課したため、貴族は結束してジョンに反抗し、1215年に大憲章(マグナ＝カルタ)を王に認めさせた。次のヘンリ3世は、大憲章を無視したため、貴族の一人(c)が反乱を起こし、王を破った。そして、以前からあった高位聖職者・大貴族の会議に州や都市の代表を加えて国政を協議した。この①身分制議会がイングランド議会の起源となり、②14世紀には貴族院(上院)と庶民院(下院)の二院制をとるようになった。

フランスのカペー朝では、国王フィリップ2世がジョン王と戦って国内のイギリス領の大半を奪い、③ルイ9世の時には、王権を南フランスにも広げた。さらにフィリップ4世は、14世紀初頭に聖職者・貴族・平民の代表者が出席する④三部会を開き、王権をさらに強化した。

- (1) 下線部①について、1295年に国王エドワード1世が招集した議会は、のちに何と呼ばれるようになったか、書け。
- (2) 下線部②について、14世紀における情勢について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
- ア 神聖ローマ皇帝カール4世は、「金印勅書」を發布して、神聖ローマ皇帝選挙の手続きを定め、皇帝選出権を聖俗の七選帝侯に認めた。
 - イ デンマーク女王マルグレーテが主導して、デンマーク・スウェーデン・フィンランドの3国の間にカルマル同盟が結ばれた。
 - ウ スペイン王国は、イベリア半島におけるイスラーム勢力最後の拠点であるグラナダを陥落させて国土統一を果たした。
 - エ スペイン人のバルトロメウ＝ディアスは、アフリカ南端の喜望峰に到達した。
- (3) 下線部③について、ルイ9世の時代に王権が南フランスにも拡大した理由について、説明せよ。

- (4) 下線部④について、三部会は17世紀前半に招集されたのを最後に開かれなかったが、18世紀後半に再び招集された。三部会招集停止及び再開の経緯について、国王名を挙げながら次の語句を用いて説明せよ。なお、語句を使用した箇所には下線を付すこと。

特権身分

B 14世紀に入り⑤封建社会の仕組が次第に衰退に向かう中、フランスでは1328年にカペー朝が断絶し、ヴァロワ朝のフィリップ6世が王位を継承した。これに対し、イングランド王は反発し、⑥百年戦争が始まった。はじめ長弓兵を駆使したイングランド軍が、クレシーの戦いでフランス騎士軍を破るなど優勢で、エドワード黒太子の活躍によりフランス南西部を奪った。フランス国内は荒廃し、国王(d)の時には王国は崩壊寸前の危機にあった。この時、国を救えとの神の託宣を信じた農民の娘ジャンヌ＝ダルクが現れてフランス軍を率い、オルレアンを包囲を破ってイングランド軍を大敗させた。これよりフランスは勢いを盛り返し、フランス北部海岸の都市(e)を除く全国土からイングランド軍を追い出して、戦争はフランスの勝利に終わった。

一方、戦後のイングランドでは、(f)家とヨーク家の間でばら戦争と呼ばれる内乱が起こった。1485年に内乱をおさめて成立したチューダー朝では、⑦統治制度をととのえ、王権に反抗する者を抑えて⑧絶対王政に道を開いた。

- (5) 下線部⑤について、次の資料1は「封建社会の衰退」を主題に作成した板書例の一部である。

資料1 (板書例) 《封建社会の衰退 (14世紀頃～)》

- 荘園経営に行き詰まる領主の増加
 - 背景
 - ・ 気候寒冷化による凶作、飢饉
 - ・ I
 - ・ II
 - 結果
 - 領主：農民の待遇向上図る
 - 農民：農奴的従属から解放される者の増加

- III 経済の拡大
 - 背景
 - ・ 中世都市の発達
 - ・ 遠隔地商業圏の形成
 - 結果
 - 領主：IVをやめ、直営地を農民に貸出
 - 農民：経済的に力をつける者の増加

- i) I、IIに適する内容をそれぞれ書け。
 ii) IIIに適する語句を書け。
 iii) IVに適する語句として正しいものを、次のア～エから1つ選べ。
 ア 現物 イ 封土 ウ 賦役 エ 地代

- (6) 下線部⑥について、百年戦争の主な原因について、政治面及び経済面それぞれに触れながら、次の語句を全て用いて説明せよ。なお、語句を使用した箇所には下線を付すこと。

エドワード3世 毛織物

- (7) 下線部⑦について、貴族層の王権への抵抗を抑えるために、ウェストミンスター宮殿に設けられた裁判所は何と呼ばれるか、書け。
- (8) 下線部⑧について、絶対王政が行われたヨーロッパ諸国の情勢について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。
- ア イギリスでは、16世紀半ばに即位したエリザベス1世が国内の修道院を解散してその財産を没収するなど、絶対王政の最盛期が実現された。
- イ スペインはフェリペ2世のもとで全盛期を迎え、16世紀後半のレパントの戦いでオスマン帝国の海軍を破り、その脅威を一時和らげた。
- ウ フランスでは、アンリ4世に始まるブルボン朝のもとで絶対王政の確立期を迎え、大規模な農民反乱であるフロンドの乱も鎮圧した。
- エ スペインから独立したオランダは、強力な王権のもとで世界の覇権を握り、都のアムステルダムは国際金融の中心となった。

C 各国ごとの統一的な政治権力が弱かった時代には、西ヨーロッパ全体に及んでいた⑨教皇の権威も、各国で王権が伸張するとさらに衰えを見せるようになった。13世紀末に教皇となった(g)は教皇権の絶対性を主張したが、⑩1303年、フランス国王フィリップ4世にとらえられ、まもなく釈放されたが屈辱のうちに死んだ。フィリップ4世は、その後、教皇庁を南フランスの(h)に移し、以後約70年間、教皇はフランス王の支配下に置かれた。これを⑪古代のバビロン捕囚にたとえて、「教皇のバビロン捕囚」という。その後、教皇がローマに戻ると、(h)にもフランスの後押しを受けて別の教皇がたち、両教皇がともに正統性を主張して対立した。この事態によって、教皇と教会の権威失墜は決定的となり、それとともに、教会の墮落や腐敗を批判し、⑫教会を改革しようとする運動が各地で起こった。

- (9) 下線部⑨について、次の資料2は、11世紀後半から13世紀にかけて教皇の権威が強大化する経緯を示したものである。

資料2 (板書例) 《教皇の権威》

11世紀後半 教皇グレゴリウス7世と神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世の対立

(叙任権闘争のはじまり)

→カノッサの屈辱 (1077年)

12世紀 V (1122年) : 教皇と神聖ローマ皇帝との妥協成立 叙任権闘争終結

13世紀 教皇インノケンティウス3世の時に、教皇権が絶頂に

i) Vに入る適切な語句を書け。

ii) 生徒から「なぜ教皇グレゴリウス7世と神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世との間に叙任権闘争が起こったのですか。」という質問があった。これに対し、どのように説明するか。叙任権の意味を明らかにしながら、書け。

- (10) 下線部⑩について、この事件は何と呼ばれるか、書け。

(11) 下線部⑩について、バビロン捕囚と同時期の情勢について述べた次の文のうち、正しいものをア～エから1つ選び、記号で答えよ。

ア ハンムラビ王が復讐法の原則に立つハンムラビ法典を發布して、法に基づく強力な政治を行った。

イ アテネでは、ペイシストラトスが僭主政治を確立し、中小農民を保護するなど平民層の力を充実させた。

ウ セム系のフェニキア人はシドンやティルスなどの都市国家をつくり、地中海貿易を独占するなど最盛期を築いた。

エ インドでは、インダス川中流域を中心に城壁で囲まれた都市国家が生まれ、特にコーサラ国、マガダ国が有力となった。

(12) 下線部⑪について、次の資料3は、神聖ローマ皇帝の提唱により開かれた公会議の中で出されたものである。資料の内容を参考にして、この公会議によって決められた主な内容について、公会議名を明記しつつ2つ説明せよ。(資料は一部省略したり、書き改めたりした部分がある。)

資料3

(歴史学研究会編「世界史史料5」岩波書店)

- 5 次の資料A、資料Bは、「19世紀におけるロシアの対外政策と国際情勢」を主題として授業を行った際に示したものの一部である。後の(1)～(3)に答えなさい。(資料は一部省略したり、書き改めたりした部分がある。)

資料A

(歴史学研究会編「世界史史料6」岩波書店)

資料B

(歴史学研究会編「世界史史料9」岩波書店)

- (1) 資料Aは、クリミア戦争の講和条約の一部である。
- i) 資料Aの内容の読み取りをとおして生徒に理解させたいことについて、ロシアがこの戦争を起こした理由及び講和条約名に触れながら、書け。
 - ii) クリミア戦争と19世紀前半のヨーロッパで形成されていた国際体制との関連について取り上げたとき、教師として、生徒に気付かせたいことについて、国際体制の名称及び特徴に触れながら、書け。
- (2) 資料Bを活用して、19世紀後半にロシアが極東にも進出し、東アジアの国際情勢に影響を及ぼしたことについても理解させたい。資料Bの条約名を書け。
- (3) 授業中に、生徒から「19世紀のロシアは、資料A、資料Bに関連する地域の他に、どのような地域に進出しようとしたのですか。」という質問があった。これに対し、どのように説明するか、書け。

6 東ヨーロッパは、国際分業において、食料などを輸出し西ヨーロッパを支える地域に位置づけられたことと、三十年戦争の戦禍のために、なかなか国家形成が進まなかった。その中で18世紀初頭に王国に昇格したプロイセンは軍隊や官僚制を整えていった。神聖ローマ皇帝位を世襲するハプスブルク家のオーストリアと争いながら大国へと発展し、後のドイツ統一を主導することにもなった。

以上を踏まえ、18世紀初頭から七年戦争終結の時期までにおけるプロイセンの発展について、オーストリアとの関係に留意しつつ、300字以内で記述せよ。なお、それぞれの語句を初めて使用した箇所に下線を付すこと。算用数字は1マスに2桁まで可とし、国名は漢字略称を使用してもよい。

上からの近代化	フリードリヒ=ヴィルヘルム1世	1756年	スペイン継承戦争
---------	-----------------	-------	----------

科 目	世界史解答用紙	2枚中の1	受験 番号	氏 名	(4年)
--------	---------	-------	----------	--------	------

1

(1)	
(2)	
(3)	

2

	a		b		c	
	d		e		f	
	g		h		i	
	j					
(1)						
(2)						
(3)		(4)		(5)		
(6)						
(7)						

3

	a		b		c	
	d		e		f	
	g		h		i	
	j					
(1)				(2)		
(3)	i)	I		II		
		III		IV		
	ii)					
(4)						
(5)		(6)				

以下はあくまでも解答の一例です。

科 目	世界史解答用紙	2枚中の1	受 験 番 号	氏 名		(4年)
--------	---------	-------	------------------	--------	--	------

1 【14点】

(1)	(例) ベトナム戦争に伴うアメリカ経済の行き詰まりは、国際経済体制にどのような影響を与えたか。 【4点】
(2)	(例) ベトナム戦争等の影響によりアメリカの財政が悪化したことに伴い、ニクソン大統領がドルと金との交換停止を発表したことで、国際通貨体制が固定相場制から変動相場制へと移行し、戦後のブレトン＝ウッズ体制が崩壊したことについて理解する。 【6点】
(3)	(例) 先進国6カ国は、先進国首脳会議(サミット)を開き、世界の経済・政治問題について協議するようになった。 【4点】

2 【52点】

【各3点】

	a	ス	b	イ	c	エ	
	d	シ	e	サ	f	ク	
	g	オ	h	ソ	i	ケ	
	j	セ					
(1)	帝位をめぐる司馬氏一族の争いである八王の乱が起こり、西晋の支配がゆらいだ。 【4点】						
(2)	北魏の孝文帝は、鮮卑族の服装や言語を禁止するなどの漢化政策を打ち出した。 【4点】						
(3)	陶淵明(陶潜)	【2点】	(4)	ウ	【2点】	(5) シュリーヴィジャヤ	【2点】
(6)	ア		【2点】				
(7)	文化面では、遣唐使の停止をきっかけに中国文化の影響が弱まり、仮名文字や大和絵に代表されるような日本風の特色をもつ国風文化が栄えた。政治面では、藤原氏を中心とする宮廷貴族社会が成立し摂関政治が行われたが、武士勢力の強まりを背景に、12世紀末には武士政権である鎌倉幕府が成立した。 【6点】						

3 【46点】

【各2点】

	a	マイソール	b	マラーター	c	シク
	d	ヴィクトリア女王	e	ローラット	f	ガンディー
	g	ネルー	h	プールナ＝スワラージ	i	英印円卓会議
	j	パキスタン				
(1)	エ		(2)	ザミンダーリー制	【2点】	
(3)	i)	I	綿花	II	綿製品	【I～IV:各2点】
		III	アヘン	IV	茶	
	ii)	18世紀には、インドでつくられたキャラコがイギリスに輸出され、イギリスではキャラコの使用を禁止するほどであったが、産業革命後の19世紀にはイギリスが機械製綿製品をインドへ大量に輸出し、インドが原材料供給地となったため、インドの伝統的な手工業が衰退し、インド社会は打撃を受けたこと。 【6点】				
(4)	ヒンドゥー教徒とイスラーム教徒を反目させてインドの民族運動を分断する意図でベンガル分割令が出されたが、これに反発したインド国民会議は、1906年のカルカッタ大会で、英貨排斥・スワデーシ(国産品愛用)・スワラージ(自治獲得)・民族教育の4綱領を決議し、イギリス支配に対抗する姿勢を示した。 【4点】					
(5)	エ		(6)	ジンナー	【2点】	

科 目	世界史解答用紙	2枚中の2	受 験 番 号	氏 名
--------	---------	-------	------------------	--------

(4年)

4 【57点】

【各2点】

	a	ロロ	b	プランタジネット	c	シモン=ド=モンフォール	
	d	シャルル7世	e	カレー	f	ランカスター	
	g	ボニファティウス8世	h	アヴィニョン			
(1)	模範議会 【2点】		(2)	ア 【2点】			
(3)	ルイ9世が、南フランス諸侯の保護を受けた異端のアルビジョワ派(カタリ派)を征服したから。					【3点】	
(4)	三部会は、17世紀前半のルイ13世の時代に招集されたのを最後に停止されていたが、18世紀後半、 <u>特権身分</u> への課税をめぐり、ルイ16世の時代に再び招集された。					【4点】	
(5)	i)	I	ペストの流行	【2点】	II	相次ぐ戦乱	【2点】
	ii)		貨幣	【2点】	iii)	ウ	【2点】
(6)	毛織物産地であるフランドル地方やワインの産地であるギエンヌ(ギュイエンヌ)地方をめぐる対立したこと、フランスで成立したヴァロワ朝に対して、イングランド王 <u>エドワード3世</u> がフランス王位継承を主張したこと。					【4点】	
(7)	皇室庁裁判所		【2点】	(8)	イ		【2点】
(9)	i)	ヴォルムス協約					【2点】
	ii)	グレゴリウス7世が教会の腐敗を防ぐために、聖職者を任命する権利である叙任権を皇帝や国王など世俗権力から教会の手に移そうとしたことに対し、ハインリヒ4世が反発したため。					【3点】
(10)	アナーニ事件		【3点】	(11)	イ		【2点】
(12)	コンスタンツ公会議では、シスマ(教会大分裂)の終結や、ウイクリフやフスの異端が決められた。					【4点】	

5 【15点】

【6点】

(1)	i)	(例) 黒海を経て地中海方面への南下を進めようとするロシアが、ギリシア正教徒の保護を口実にオスマン帝国とクリミア戦争を起こしたが、イギリスやフランスなどがオスマン帝国側として参戦し、パリ条約の締結によりロシアの南下政策を阻んだこと。
	ii)	(例) クリミア戦争により、勢力均衡を特徴とするウィーン体制が最終的に崩壊したこと。【3点】
(2)	アイグン条約 【2点】	
(3)	例) 中央アジアにも進出し、ウズベク族のブハラ=ハン国、ヒヴァ=ハン国を保護国とし、コーカンド=ハン国を併合した。【4点】	

6 【16点】

プロイセンは、18世紀初頭のスペイン継承戦争で神聖ローマ皇帝を助け、王国へ昇格した。2代目の王フリードリヒ=ヴィルヘルム1世は軍備を増強し、絶対王政の基礎を築いた。続くフリードリヒ2世は、啓蒙専制君主として上からの近代化を進める中、マリア=テレジアがハプスブルク家の領土を継承したことに異議を唱え、フランスやバイエルン公などとともにオーストリアと戦い、資源の豊富なシュレジエンを獲得した。シュレジエン奪回を目指すオーストリアが長年対立していたフランスと同盟すると、フリードリヒ2世はイギリスの支援を受け1756年に七年戦争を起こし、苦戦しつつもシュレジエンを確保し、プロイセンの強国化を実現した。
